

北海道産広葉樹木材の活用

資源活用第二課

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、世界的な木材需給の混乱とコンテナ不足を引き起こし、日本においても木材不足と価格高騰、いわゆる「ウッドショック」が起きました。さらに、2022年にはウクライナ情勢によりロシアからの輸入が止まり、木材業界には大きな影響が生じています。このように、外国材の供給が減少又は不安定化していることから、国産材時代到来とも言われ、特に北海道産木材が非常に注目されています。

北海道は、広葉樹資源全国約14億 m^3 の約4分の1に当たる3億5千万 m^3 、生産量（2013年）240万 m^3 、北海道70万 m^3 約30%と広葉樹木材の生産・利用において、国内で中心的な地域なので、広葉樹の木材利用についてご紹介します。



北海道内の針葉樹の人工林には多くの広葉樹が生育する

北海道には、大雪山系を中心にして天塩山地、北見山地、夕張山地、日高山脈、十勝地域、根釧地域など多くの山地と豊かな森林があり、その森林は、道内でも冷涼な地域をのぞき、冬に落葉する広葉樹を主体とした冷温帯夏緑広葉樹林に属しています。

世界的にみても同緯度にはアメリカ五大湖、南ドイツから北フランス、ロシア沿海州、中国東北三省と広葉樹の産地がありますが、その中で北海道の広葉樹は高い品質を誇っています。

広葉樹の評価は木目と色の美しさで決まると言われていますが、原木の保管も重要であり、北海道では雪を利用して伐採を行うことにより原木の割れを防ぎ、雪上で搬送を行い冷蔵状態に保つことで良質な原木を市場に供給しています。

広葉樹はミズナラをはじめカンバ類、センノキ（ハリギリ）、ヤチダモなど様々な種類があり、色合いや木目を活かし家具やフローリング等の内装材として利用され、地域の産業を支えています。しかし、以前から慢性的な原料不足と言われていたが、今回のウッドショックによる外国産広葉樹の減少、輸入コストの増大などから、北海道産広葉樹、特に国有林への期待が高まっています。



銘木市へ出品された国有林材

【ミズナラ】

ミズナラの木材は、はっきりした木目と高級感のある色合い、家具や建物の内装材などによく使われます。

また、落ち着いた色と美しい木目を持ち、海外で高級な材料として好まれているほか、ウイスキーやワインの樽にも使われています。

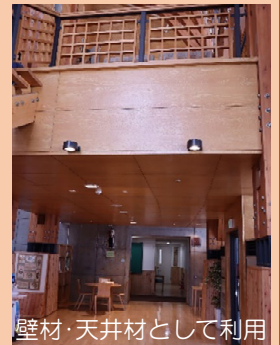


ミズナラのテーブル

道産広葉樹の利用例 ～北海道森林管理局庁舎～

【センノキ】(ハリギリ)

センノキは木肌の白さ、木目の美しさ、材面の光沢などからツキ板（内装用合板）羽目板（無垢材）として特に好まれています。



壁材・天井材として利用

良い材質の木材は北海道から産出されていて、現在でも国内産のセンノキの9割は北海道産と言われています。

【カンバ】

『カンバ』とい名前は、カバノキ科カバノキ属の樹木の総称で、シラカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバのことを指します。



傷や衝撃に強いことや経年劣化がしにくく、反りや狂いが起きにくい木材で水にも強いことから家具に加工しても長く使うことが可能です。このような特性を活かし、家具以外にも内装パネル材やフローリング、ドアなどの建築材、玩具、食器、雑貨などその用途は多岐にわたります。

また、木製バットに使用される木材。従来アオダモが主体で8割以上を輸入材が占めている中、北海道に多く自生するダケカンバを素材として利用する研究も進められています。

【ヤチダモ】



階段の手すりにも利用

ヤチダモは、日本では北海道本州の長野以北に分布しています。強靱で衝撃に強いこと

から家具や床材、内装に使われるほか、スポーツ用具などに使われていますが、現在では国内生産と輸入材の減少で流通量が減少しています。

北海道森林管理局の取組 ～広葉樹資源の有効利用に向けて～

北海道森林管理局では、貴重な広葉樹資源を有効利用するため、人工林を帯状に伐採する際に伐採幅に当たり、伐採の対象となる広葉樹について、丸太を用途別に選別し、付加価値の高い製品向けに供給する取り組みを実施しています。また、伐採された広葉樹材のうち良質なものについては、旭川市で開催される「銘木市」へ出品するなど、より付加価値の高い用途向けの丸太の供給ができるよう、引き続き取り組んでいきます。



※ この記事の構成は、北海道森林管理局にインターンシップに来た学生に考えていただきました。ありがとうございました。